

市長室から（5月15日記）

三笠の将来を考えたまちづくりをしっかりと取り組んでまいります

すっかり春めいてきましたが、市民の皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

季節の変わり目は、体調を崩しやすいと言われてますのでご注意ください。

さて私は、4月の地方選挙で市長に立直し、当選させていただきました。

無投票ではありましたが、信任をいただいたものと考えています。

将来のまちづくりを目指し、現状の問題点を一つ一つ解決しながら全力で取り組んで参りますので、どうぞよろしく申し上げます。

三笠市は、炭鉱閉山が相次ぎ、その後遺症とも言える人口減少の中にありますが、移住定住対策や子育て支援対策などの効果により、転入転出だけを見た場合、平成26年度はついに増加に転じることができました。

この現象がいつまでも続くとは思っていませんが、次々と手を打ちながら、少しでも減少に歯止めをかけ、元気な三笠を取り戻したいと考えていますので、市民の皆さんの力強いご支援をお願いします。

また三笠市では現在、重点政策として4つのプロジェクトに取り組んでおり、その1つ目は、三笠高校の安定運営の取り組みで、今年は千葉県からの出願もあり、北海道ブランドから全国ブランドになりつつある感があります。

将来は、市内に食産業関連の施設などが立地される環境を整えたいと考えています。

2つ目は、三笠ジオパークの推進で、観光には「膨大な資金を使って造る徹底的な大規模開発によるディズニーランドのようなもの」と「地域資源を活用した中小規模だが景観や学びをテーマとしたもの」の2種類があり、当市には後者の学びをテーマとした開発が当てはまると思っており、ジオパークはまさに三笠の歴史そのものをテーマに取り組めるもので、最も当市に馴染む開発と考えています。

3つ目は、イオン農場の安定運営と既存農業との連携で、イオン農場の発展が三笠全体の農業と連携し、販路拡大や新しい産物の開発に繋がるのではないかと考えています。

以上の3つは相互に関連し、相乗効果を生むことができると考えています。

最後に石炭地下ガス化の研究ですが、室蘭工業大学と提携し幾春別地区で施設実験とフィールド実験が開始されていますが、5年程度での実用化と方向性の確立を目指し取り組んでいただいています。この取り組みでは、メタンガスや水素などが生産されることからエネルギー革新の時代にあって、産業起こしに繋がるものと期待しています。

当面は、市民の皆さんが安心して暮らしていただくための中心市街地の再整備とともに、前述した取り組みをしっかりと進めたいと思っています。

市民の皆さんのご理解とご協力をよろしく申し上げます。

（広報みかさ平成27年6月号に掲載したものです。）